

最近の市場における靴用裏革の性状

都皮技センター

今井哲夫

昭和女大家政

○角田由美子 岡村浩

〈目的〉裏革は靴の甲部の裏側に用いられる革で、羊革、山羊革、馬革、豚革、牛革などが使用され、その性能は靴のはきごこちに重要な役割を果たしている。本報では標準的な靴用裏革を収集し、それらの性状を調査した結果をとりまとめた。

〈方法〉実験に用いた試料は豚革8点、馬革8点、小羊革6点、牛革3点、合成皮革1点の合計26点である。機械的性質として厚さ、引張強さ、切断時の伸び、引裂強さ、耐屈曲性、テーパー式摩耗試験。物理的性質として静的吸水度、吸湿度、透湿度、テンソメーターテスト、剛軟度、見掛け比重。染色摩擦堅ろう度として乾燥、湿潤、アルカリ性汗の汚染。以上をJISに基づき測定した。化学分析は水分、灰分、クロム含有量、脂肪分、皮質分、可溶性成分、可溶性灰分、固着成分、なめし度、pH、T_DをJIS-K-6550に準じて測定した。また裏革は汗の影響を受けることが多いので、人工汗液(アルカリ性汗液)を用い繰り返し浸漬、乾燥する耐汗性試験を16回行ない、機械的性質の変化を測定した。

〈結果〉機械的性質では、豚革、馬革の引張強さ、切断時の伸びで、JIS規格以下革がみられた。また小羊革の引裂強さが比較的低い値を示した。物理的性質の静的吸水度、吸湿度、透湿度では塗装仕上げの革は低い値を示し、素上げ革は高い値を示した。裏革に足から発生する水分を吸収させるためには、仕上げを出来るだけ少なくした方が良いと考えられる。染色摩擦堅ろう度の結果、豚革の銀付き素上げ革(黒色)でJIS規格以下の値を示したが他はすべて良好な結果を示した。耐汗性試験の結果、浸漬回数が増えるにしたがって機械的性質は低下する傾向が認められた。